第４学年　国語科学習指導案

場　所：４年生教室

１　単元名　読んで考えたことを話し合おう
　　教材名　「ごんぎつね」　新美南吉

２　指導の立場

（１）単元で付けたい力

本単元の学習を通して，付けたい力は以下の通りである。

文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。 読むこと　オ

文章を読んで考えたことを発表し合うことは，感じ方の違いを知り，自分の感想の根拠や考え方を振り返ることにつながる。また，仲間から新たな見方を獲得することで，改めて作品を読んだときに，作品をより深く理解し，よさやおもしろさを感じることにもつながる。そこから児童には，自分の考えをもち，仲間の考えと比べて感じ方の違いに気づく力を付けさせたい。

（２）単元・題材について

「ごんぎつね」は，いたずら好きのひとりぼっちのごんと，母親を亡くし同じくひとりぼっちになった兵十を中心に展開される物語である。主人公のごんは，兵十の母親の死をきっかけに兵十を慰め，喜ばせようと行動するがその思いは届かない。それどころか最終的には兵十に撃たれてしまい，心を通い合わすことなく物語が終わってしまう。そのため，ごんと兵十の関係や，すれ違いが生み出す結果に，いろいろな視点から自分の感想や考えをもちやすい作品である。

なぜそのように考えたり，感じたりしたのかということについて，叙述を根拠にし，自分の感想を交流する活動を設定することで，児童に感じ方の違いを気付かせたい。

（３）言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として，「読書会」を設定する。読書会とは，一つの作品や一人の作家の作品などを話題にて，一人一人が自分の感想を発表し合う活動である。感想を交流しながら，相手の考えに共感したり，感じ方の違いを互いに理解したりすることで，いろいろな見方から作品のよさやおもしろさを感じられる活動である。

【読むこと領域の単元と言語活動の計画】

１学期 白いぼうし	【単元のねらい】 場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ち，情景などについて読む。	【言語活動計画】

▼

２学期 ごんぎつね	【単元のねらい】 場面の移り変わりに即して登場人物の行動や気持ち，関係の変化を考え，友達と交流して一人一人の感じ方について違いがあることに気付く。	【言語活動計画】 読書会

▼

3学期 初雪のふる日	【単元のねらい】 場面の移り変わりに即して登場人物の気持ちや情景などを想像して読み，感じたことが伝わるように音読する。	【言語活動計画】 音読劇

３　研究にかかわって

研究内容１　教材と向き合い，既習事項と比較し，自分の考えをもつことができたか。

（１）導入時に児童の意欲を引き出し，単元・単位時間の見通しをもたせるための工夫（教材との対話）

単元の導入では，新美南吉作品との出会いとして「てぶくろを買いに」を読み聞かせる。その後，自分の感想を語り，教師が行った「てぶくろを買いに」の読書会をモデルとして示す。実際の場面を提示することで単元の出口のイメージをもたせる。

（２）個の考えをもたせるための課題設定や，考えをつくるための視点を与える工夫（自分との対話）

毎時間の課題を「〇〇のごんの気持ちを読み，読書会をしよう。」と設定する。そうすることにより，読書会で自分の感想を話すという目的意識を高め，それを単元の終末まで継続させたい。

また，ごんの気持ちを読んで，個の考えをもたせるために，「しぐさ」「行動」「会話」「背景」「人物像」などの視点を提示する。視点をもとに自分の考えをもつことで，叙述を明確にし，自分の考えを話せるようにする。

研究内容２　仲間と共に考えを練り合い，自分の考えを高めることができたか。

（１）展開時の交流において自分の考えを広げたり，深めたりできるような形態，交流の工夫（仲間との対話）

全体交流において物語のあらすじや，そのときの登場人物の気持ちの読み取りを発表するようにする。その全体交流で仲間と対話したことを活かしながら深まった自分の感想を読書会で話せるようにする。

読書会は，4 人のグループで交流する。司会を立て，様々な意見を聞きつつ自分の感想を整理して話すことができるためである。その際，全員が発表した後に「なるほど」と思った仲間の考えを見つけて，自分の感想を話すようにする。仲間の発表と自分の考えを比べて感想を話すことで，聞く必然性をつくる。また，仲間の発表を聞いて，共通点や相違点に着目し，自分の考えを確かなものにしたり，仲間の意見を取り入れたりするために，話型を与えたり，司会に問い返しをさせたりしながら読書会を進める。

研究内容３　学習内容を確実に理解し，自分の考えを深めることができたか。

（１）終末時に，自分の考えの変容を振り返り，学びを実感するためのまとめ方の工夫（自分との対話）

交流の振り返りとして，自分の意見と読書会で聞いた仲間の意見とを比べ，自分の考えが確かになったり，変わったりしたなど関連づけながら感想を書くことで，抜き出した叙述の違いや，同じ叙述からでも多様な感じ方があることに気づかせる。

4　単元指導計画（全 10 時間）

次	時	ねらい	学習活動	評価規準
1	1	「ごんぎつね」を音読して物語の設定を確認し，初発の感想を書くことができる。	①題名やリード文を読んで単元を貫く学習課題を理解する。 単元を貫く課題 物語を読んで考えたことを話し合おう。 ②「てぶくろを買いに」の読み聞かせと，読書会のモデルを示す。 ③本時の課題を確認する。 物語を読んだ初発の感想を書こう。 ④物語を読んで感じたことや，１番心に残った場面とその理由などを中心に初発の感想を書く。	物語の大まかな設定をつかみ，感想を書いている。
	2	初発の感想を交流し，学習の見通しをもつことができる。	①本時の課題を確認する。 感想を交流し、場面ごとの学習課題を作ろう。 ②前時に書いた感想を交流する。 ③あらすじをつかみ，物語が６つの場面で構成されていることを確認する。 ④場面ごとの課題を作る。	感想交流から，物語の流れをつかむとともに，各場面の学習課題を設定している。
	3	新出漢字や難語句について調べることができる。	①本時の課題を確認する。 新出漢字や難しい言葉の意味調べをしよう。 ②新出漢字を覚え，練習する。 ③難しい言葉をノートに書き出し，辞書を活用して，具体的にイメージできるようにする。	漢字を正しく覚え，難語句を言葉と言葉をつないで推測したり，辞書で調べたりして言葉の意味を具体的にイメージしている。
2	4	ごんの境遇や性格をつかみ，兵十のうなぎを盗み，いたずらをするごんの行動や気持ちを読み取ることができる。 （第１場面）	①本時の課題を確認する。 いたずらをするごんの気持ちを読み、読書会をしよう。 ②ごんの境遇や性格を確認する。 ③ごんの行動や気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き，そのときの気持ちを考える。 ④全体交流をする。 ⑤読書会をする。 ⑥本時の振り返りをする。	ごんの境遇や性格をつかみ，いたずらをするごんの行動や気持ちを読み取り，感じたことを読書会で話している。
	5	兵十のおっかあが死んだと知り，いたずらをしたことを後悔するごんの気持ちを読み取ることができる。	①前時の振り返りをする。 ②本時の課題を確認する。 いたずらをしたことを後悔するごんの気持ちを読み、読書会をしよう。 ③ごんの行動や気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き，そのときの気持ちを考える。	兵十のおっかあが死んだと知り，いたずらをしたことを後悔するごんの気持ちを読み取り，感じたことを読書

		（第２場面）	④全体交流をする。 ⑤読書会をする。 ⑥本時の振り返りをする。	会で話している。
	6	盗んだいわしを兵十の家に投げ込み，償いを１つしたと思ったり，償いのつもりのいわしによって兵十が傷つけられたことを知り，償いの気持ちを一層強めたりしたごんの気持ちを読み取ることができる。 （第３場面）	①前時の振り返りをする。 ②本時の課題を確認する。 償いをするごんの気持ちを読み、読書会をしよう。 ③ごんの行動や気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き，そのときの気持ちを考える。 ④全体交流をする。 ⑤読書会をする。 ⑥本時の振り返りをする。	償いをしたつもりが，それによって兵十が傷つけられ，より一層償いの気持ちを強めたごんの気持ちを読み取り，感じたことを読書会で話している。
	7	兵十と加助が話しているのを聞き，「引き合わないなあ」と思ったごんの気持ちを読み取ることができる。 （第４・５場面）	①前時の振り返りをする。 ②本時の課題を確認する。 兵十と加助の後をつけていくごんの気持ちを読み、読書会をしよう。 ③ごんの行動や気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き，そのときの気持ちを考える。 ④全体交流をする。 ⑤読書会をする。 ⑥本時の振り返りをする。	兵十と加助が話をしているのを聞いているときのごんの気持ちを読み取り，感じたことを読書会で話している。
	8	本時		
3	9	これまでのごんの気持ちを振り返ったうえでのまとめの感想を書き，読書会で話し合うことができる。	①本時の課題を確認する。 ごんぎつねを読んで考えたことを読書会で話し合おう。 ②１～６場面のごんの気持ちを確認し，それらをもとに，ごんぎつねのまとめの感想を書く。 ③グループで読書会をする。 ④全体交流をし，次回の読書会のテーマを考える。	１～６場面のごんの気持ちを振り返ったうえでのまとめの感想を書き，自分の考えを話している。
	10	グループごとに前回決めたテーマについて，読書会で話し合うことができる。	①本時の課題を確認する。 テーマについて考えたことを読書会で話し合おう。 ②テーマについて自分の考えをまとめる。 ③グループで読書会をする。 ④読書会で深まった考えを全体で交流し，仲間との感じ方の違いに気づくことができる。	テーマについて考えたことを，読書会を通して話している。

５　本時の展開

（１）本時のねらい

行動やしぐさから読み取ったごんの気持ちをもとに，兵十に撃たれたときのごんに対する感想を，一人一人の感じ方に違いがあることに気付いたり，仲間の意見と関連づけたりしながら，話すことができる。

（２）本時の展開（８／１０）

	学習活動	対話を引き出す手立て
導入	①前時の学習を振り返る。（教材との対話） ・私は，兵十と加助が「神様の仕業だ」と言ったところで，ごんのしたことが伝わっていなくて残念だと思ったけれど，○○さんは，ごんになりきって寂しい気持ちになったと言っていて，なるほどなと思いました。 ②本時の課題を確認する。 兵十にうたれたごんの気持ちを読み、読書会をしよう。	○前時を振り返り，感想の違いを感じることで本時への意欲を引き出す。
展開	③ごんの行動や気持ちが分かる叙述にサイドラインを引き，そのときの気持ちを考える。（自分との対話） ④全体交流をする。（仲間との対話） ・「うちのうら口から，こっそり中へ入りました」というところから，ごんは，今日こそは分かってほしいという気持ちだったと思います。 ・「ごんは，ばたりとたおれました。」というところから，せっかく持っていったのに分かってもらえず，悲しい気持ちだったと思います。 ・「ぐったりと目をつぶったまま，うなずきました。」というところから，最後に分かってもらえてよかったなと思いました。 ⑤読書会をする。（仲間との対話） ・ごんがうたれてしまったところから，本当はごんがくりや松たけを運んでいたのにかわいそうだと思いました。 ・○○さんはうたれてしまってかわいそうだと言っていたけれど，僕は，最後に，兵十に本当のことが分かってもらえたのでごんはよかったと思います。 ⑥本時の振り返りをする。（自分との対話） 私は，ごんがくりや松たけを毎日持って行ったのに，最後は撃たれて死んでしまったのでかわいそうだと思いました。でも，○○さんの意見を聞き，ごんの気持ちは兵十に届いたから良かったという考えもあるのだなと思いました。	○机間指導では，「しぐさ」「行動」「会話」「背景」「人物像」などの視点を提示することで，ごんの気持ちを読み取らせる。 ○全体交流では，サイドラインを引いた叙述と，そこから分かるごんの気持ちを発表させる。 評価規準 兵十に撃たれたときのごんの気持ちを読み取り，仲間の考えと関連付けながら，自分の感想を読書会で話している。 ○互いの感想を比べながら聞けるよう，「○○さんの意見は～～ですね。同じところでも違う感想はありませんか。」など問いかけができるよう司会者指導をする。 ○読書会で聞いた仲間の意見と自分の意見を比べ，同じところや違うところを意識させる。
終末		